

**2018年度CCクラブホームカミングデイ講演録**  
**やっと見つけた！手ごたえのある生き方**  
**～ボランティアとフィランソロピー～**  
**日本フィランソロピー研究所所長 渡邊一雄先生**

本講演録はCC通信 39号に掲載した2018年6月16日（土）チャレンジコミュニティ・クラブ、ホームカミングデイ、日本フィランソロピー研究所所長渡邊一雄先生の講演内容を再編集いたしました。なお、講演内容についてはCC通信掲載にあたり講演者が新たに執筆しました。

**【略歴】**

渡邊一雄先生は一橋大学法学部を卒業後、マサチューセッツ工科大学スローンスクールに留学し、その後三菱セミコンダクターアメリカの社長としてアメリカのノースカロライナ州ダーラム市に赴任しました。その後現地でフィランソロピーに出会い、そして帰国後に東京大学附属病院でボランティア活動を始めました。社会福祉法人役員、東京大学医学部特別講師、日本社会事業大学理事・同大学院特別客員教授、岩手県立大学教授、健康生きがい学会理事などを務めました。現在、落語家三遊亭大王として活動しながら、広く精力的に活躍しており、その一端を今回の講演会で紹介されました。

**【フィランソロピーとの出会い】**

私は1990年に「体験的フィランソロピー」という本を上梓し、日本にフィランソロピーの必要性を主張した。当時は世界中から日本はエコノミックアニマルと非難されていた。私は企業人であったが大学教授に転進し、東京大学医学部や慶應大学また経団連でも講義をし続けてきたが、なかなかフィランソロピー精神が根づく理解は出きるが実践に至らないのが実状である。しかし、人生の晩年になつて気づいたことは、今までは企業の社会貢献を主張していたが、それも重要ではあるが現代日本の超高齢化社会において生きる手応え、生きる生甲斐を求めている高齢者にこのボランティアフィランソロピーが解決の糸口ではないかと気づき、再びここでフィランソロピー活動を認識し実践することの重要性を強調していきたい。そこで、フィランソロピーとは何かを説明する前に私自身のフィランソロピーとの出会いをお伝



ユーモア溢れる渡邊先生の講演

ユーモア溢れる渡邊先生の講演

えしよう。それはかつてバブルさなかの頃(1980年代)アメリカで起った事件である。当時、企業戦士(エコノミックアニマル)と呼ばれ、寝ても醒めても仕事一本の毎日で社会貢献など思いもよらぬ頃の話である。

当時、私は三菱セミコンダクターアメリカの社長としてアメリカのノースカロライナ州ダーラム市に赴任していた。そこで全米少年野球大会が開かれることになった。思いがけないことに私に始球式をやってほしいとの依頼があった。忙しいので一旦は断ったが社員が「社長は行くべきだ。地域貢献の為のフィランソロピーだ」としきりに言うので意味も分からず嫌々球場に行くと、なんと平日の昼間なのに約二千人の市民が詰めかけていた。監督がやって来て「突然ノースカロライナ州の知事が来て、彼が投げることになったので、あなたはアメリカ国歌を独唱してくれ」と言う。「ノーノー」と叫んだが私をピッチャーズマウンドに残して去ってしまった。今からミスターワタナベがアメリカ国歌を歌います、全員起立！」というアナウンスが流れ国旗がスルスルと上る。もう逃げられない。やるっきゃないと覚悟して歌い出した。情けない声、下手な歌が流れ出した。すると可哀想に思ったのか少年野球の選手達が助けてやれという思いか可愛い声で唱和してくれ、ついに球場に来ている市民達も歌い出し大コーラスになった。歌が終わるや子供達が駆けよりもみくちやにされ次の瞬間、球場から嵐のような拍手が湧き上がった。「オーイ日本人、君を今日から友達にしてやるよ」、「君を市民にしてやるよ」という声が聞こえ思わず「サンキューベリーマッチ、ありがとうございます」と叫び最敬礼をした途端、涙がとめどもなく出てきた。丁度テニスの大坂なおみ選手がブーイングの中で「優勝してすみません、ありがとうございます」と涙ながらに語った一言でアメリカ人の心情がガラリと変わったあの光景と同じ雰囲気を感じた。この日から私の人生の生き方が変わった。小さなことでも人が喜んでくれることをすることには感動があり、感動こそ生きている証である、これがフィランソロピーというならこれを私の生甲斐にしようと悟ったのである。仕事も大切だが同時にお金に替えられない心の報酬(サイキックインカム)が生きている意味なのだ、ということが心の底から理解できるようになった。

### 【フィランソロピーとは？】

さて、ここでフィランソロピーの意味について端的に説明してみよう。少し難しいがよく味わっていただきたい。フィランソロピーの日本語訳は「社会貢献」とされているが正しい翻訳ではない。正しい訳がないから一応社会貢献としている。英語では philanthropy と綴るが語源はギリシャ語の「フィロス(愛)アンスロポス(人間)」を組み合わせたフィランソピアである。つまり、人を愛することや博愛を意味しているが「博愛主義」や「ヒューマニズム」とは違うのは、これらが心の問題として必ずしも行動を伴わないのに対してフィランソロピーは行動が必要となる。いわば思想と行動のセットであり社会の仕組みを変えるプロセスである。ボランティアとの違いは、フィランソロピーは一つの思想あるいは土台でありその上にボランティアやN・P・O活動がある。フィランソロピーを具現化する手段がボランティアである。フィランソロピーが頭でボランティアが手足であるといってもよい。チャリティーという言葉もあるが、これはイギリス

で良く使われる。1601年に生まれた「救貧法」に起因し、お金持ちが貧しい人にモノやカネを恵むという考え方である。フィランソロピーとの違いを端的に言えば「飢えた人に魚を与える」のがチャリティーで「魚の取り方を教える」のがフィランソロピーである。この違いを良く理解していただきたい。即ち困っている人の為に社会の仕組みを民間の力で変えていく。生活の質的向上を図る思想と実践行動のセットがフィランソロピーの基本的考え方である。



会場に質問を投げ掛ける渡邊先生

### 【日本でのフィランソロピー活動の始まり】

かつて筆者が創設した「東大病院にこここボランティア」がフィランソロピー活動のモデルとあって良いと思われる。当初は東大側もボランティアフィランソロピーの導入に否定的であったが、日野原重明先生の強いサポートもあって1995年にスタートすることが出来た。NHKの調査によればこの活動で患者も喜び、参加したボランティアも手応えのある生甲斐を感じ、なんと東大病院側の医師職員のサービスのあり方も向上してきたというデータが全国に発表された。その影響で全国約150の大学病院にボランティア組織が形成されていった。これが社会の仕組みを変えていくフィランソロピーの効果である。アメリカと違うところはアメリカは完全に「民」の力だけの活動であるが、日本は「官」の力との合成の上の日本型フィランソロピーが展開されている。CCクラブは会員(民)をベースとして、港区(官)と明治学院大学(学)、即ち民官学の見事なコラボレーションによって、すばらしい日本型フィランソロピーの活動で心から称賛したい。



最後に会場からの質問に答える渡邊先生

## 【好きな言葉】

私の好きな言葉をいくつか紹介します。

### 人間力は顔施(ガンセ)寛恕(カンジョ)

日野原先生も笑顔大切にしている、私も同じように笑顔でユーモアある話を心掛けています。地域社会で生きていく上で大切なことは落語とユーモアのある話だと思います。

### 「為己為人」(ワイケイワイヤン)

人のためになることは自分のためにもなる。自分が今生きていることは皆さんのおかげです。すべての自然に私たちは助けられています。宗教を持っていない方にも神様がいます。人を楽しませつつ自分も楽しむ、どれだけ楽しんだかが人生の通信簿です。最後に私の好きな坂村真民の言葉を紹介합니다。

### 坂村真民の言葉

渡邊 一雄

ゴールデンウィークに畏友藤尾秀昭氏(致知出版社社長)から一冊の本が送られてきた。「坂村真民一日一言」という詩集である。人生の詩、一念の言葉と表紙に書いてある。読んでみて驚いた。

一つ一つの言葉が心の奥底に沁みるのである。私は過去十年間、千回以上「やっと見つけた人生の生き方」という講演をしてきたが、いつもこんな内容でいいのだろうかという気持ちに襲われる。平凡な私の人生観ではなく、セネカやゲーテ、吉田兼好や鴨長明、良寛、日野原重明、マザーテレサ、アンドレ・モロアなど天才が残した人生観の中で私共が理解でき、実現できそうな内容を取り上げてきた。しかし天才たちの言葉は真理をついているが凡人には分かりにくい。

だが 97 歳で永眠した真民の詩はどれを取り上げても胸を打つ。しかも人生の本質を分かりやすくついているのだ。これを講演で丁寧に取り上げたいと思った。「人生に口ずさむ言葉として」という真民の素晴らしい詩の一部をご紹介します

#### ① 静かな愛

「かなしみを/あたたためあって/歩いていこう」

悲しみをあたためためでではなくあたためあってと言っているところに深い意味がある。痛い時、痛いかい、苦しい時、苦しいかいと聞くより黙って傍にいて時にいたいでしょうね、苦しいでしょうねと共感する人が最高の友人であると真民は明言している。

#### ② しっかりしろしんみん

「しっかりしろしんみん/しっかりしろしんみん/しっかりしろしんみん/しっかりしろしんみん/どこまで書いたら/気がすむか/もう夜があけるぞ/しっかりしろ/しんみん」

平成 11 年 90 歳の時の詩である。弱っていく自分を励ましている姿に感動する。真民は 796 冊の詩集を残している。

#### ③ 落日

落日が知らせる/晩年の生き方

「一生懸命その人なりに輝いて静かに沈んでいく」人生のあり方を示唆している。

④ 生きるのだ

「いのちいっぱい/いきるのだ/念じて念じて/生きるのだ/一度しかない人生を/何か世のため人のため/自分にできることをして/この身を捧げ生きるのだ」「為己為人の精神」真民は「衆生無辺警願度」の仏教の言葉を座右の銘としている。これを優しく訳すと「自己中心を捨てて苦しんでいる人すべてに温かい手を差し伸べる」ということ

⑤ あとから来る者のために

「あとから来る者のために/田畑を耕し種を用意しておくのだ/ああ/後から来る者のために/山を/川を/海を/きれいにしておくのだ/ああ/あとから来る者の為に/苦勞をし/我慢をし/みんなそれぞれの力を傾けるのだ/あとからあとから続いてくる/あの可愛い者たちのために/みなそれぞれ自分に出来る/何かをしてゆくのだ」。私はこの詩が大好きだ。

⑥ 何かをしよう

何かをしよう/みんな人のためになるなにかをしよう/よく考えたら自分の体に合った何かがある筈だ/弱い人には弱いなりに何かがある筈だ/生かされて生きているご恩返しに/小さなことでもいい/自分にできるものをさがして/何かをしよう」

臨濟宗円覚寺派管長横田南嶺氏も真民のこの詩を絶賛し、自ら「坂村真民詩集百選」を出版している。愛媛県松山にある彼の記念館にいつか行きたい。

以上